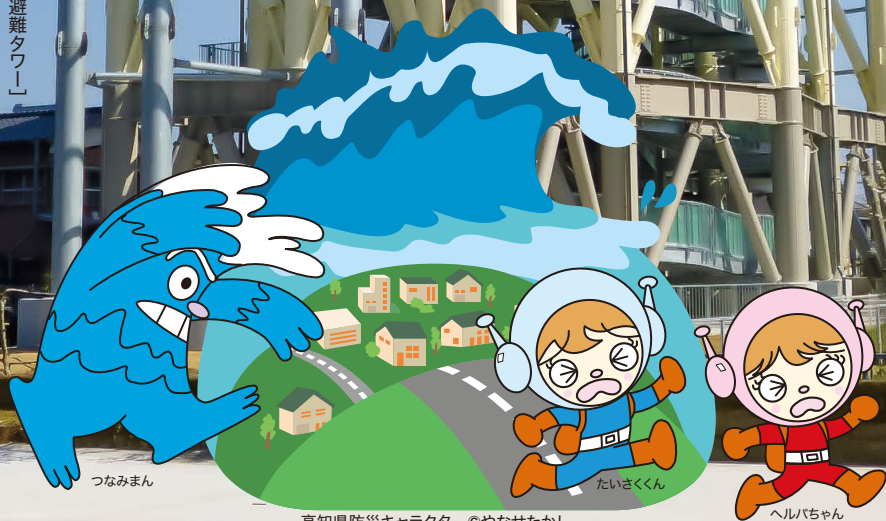


備える・学ぶ 南海トラフ地震対策

黒潮町提供「津波避難タワー」

犠牲者を限りなくゼロに近づけるために、高知県が進めてきた対策を、特定歴史公文書等を中心とした資料から紹介します。



高知県防災キャラクター © やなせたかし



昭和南海地震発生後の様子

入場
無料

開催場所 高知県立公文書館 1階展示室

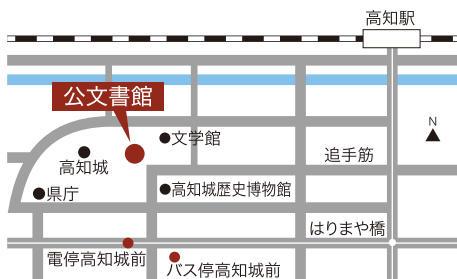
開催日時 令和5年 7月24日(月) → 12月25日(月) 9時-17時
※土・日・祝は原則休館。ただし、7月30日(日)、8月27日(日)は開催。

県政の記録を未来へ

高知県立公文書館
Kochi Prefectural Archives



〒780-0850 高知県高知市丸ノ内一丁目1番10号
TEL 088-856-5024 / FAX 088-856-5014
E-mail: 110202@ken.pref.kochi.lg.jp
https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/110202/



アクセス

【路面電車、バスの場合】
「高知城前」下車。高知城方面徒歩5分。
「山内一豊公像」北側。

【お車の場合】
駐車場はありません。
近隣有料駐車場をご利用ください。

備える・学ぶ 南海トラフ地震対策

南海トラフを震源とする巨大地震は、概ね90～150年周期で発生しており、その都度本県に大きな被害をもたらしてきました。昭和21年(1946年)12月21日に発生した昭和南海地震から既に75年以上が経過し、年々切迫度が高まってきています。

今後30年以内に70～80%の確率で発生すると想定されている南海トラフ地震において、犠牲者を限りなくゼロに近づけるために、本県では全国に先駆けて、地震による被害の軽減や発災後の応急対策、速やかな復旧・復興に向けた事前の準備など、様々な対策をハード・ソフトの両面から進めてきました。

本企画展では、本県がこれまで取り組んできた「南海トラフ地震対策」を特定歴史公文書等を中心とした資料から紹介します。

県民の皆さまにとって、本企画展が、高知県の南海トラフ地震対策への理解を深め、学びの一助となりましたら幸いです。

備える



【特定歴史公文書・行政資料】
第1期(H21～H26)～第5期(R4～R6)
高知県南海トラフ地震対策行動計画



地震による被害の軽減や発災後の応急対策、速やかな復旧・復興に向けた事前の準備など、「命を守る」「命をつなぐ」「生活を立ち上げる」具体的な取り組みをまとめたトータルプラン。

地域の防災活動、自主防災組織の活性化 「自主防災活動事例集」



南海トラフ地震のような大規模災害では県内各地で同時多発的に甚大な被害が想定されるため、近隣の人たちが互いに協力して助け合う「共助」が重要です。「共助」の要となる『自主防災組織』では地域での避難路の整備や避難マップ作成など「自分たちの地域は自分たちで守る」ため様々な活動が進んでいます。

高知県南海地震による災害に強い 地域社会づくり条例案関係(H19)

H20国際規格デザイン H12当時の県統一デザイン



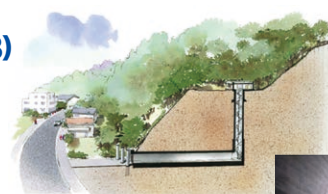
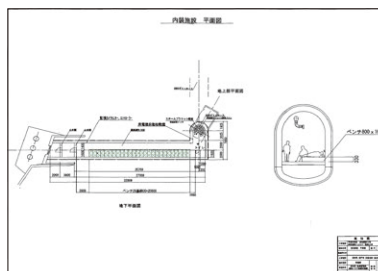
本県では平成12年に津波避難に関する県統一デザインを定め、普及を進めてきました。その後、平成17年に本県も参加した国の「防災のための図記号に関する調査検討委員会」で全国統一デザインを定め、平成20年に国際規格となり、本県もこのデザインを関係条例施行規則で定め、これまでの統一デザインから移行しました。

津波避難タワーの整備などの取組



「命を守る」ため、これまで取り組んできた避難路や避難場所の整備や総合防災拠点の整備などの対策を「高知県の地図」に示したパネルを展示します。

【特定歴史公文書】 津波避難シェルター整備工事(H28)



津波避難シェルター イメージ図

室戸市佐喜浜町津呂地区に、平成28年度に完成した津波避難シェルターの内装施設平面図。



津波避難シェルター 内部写真

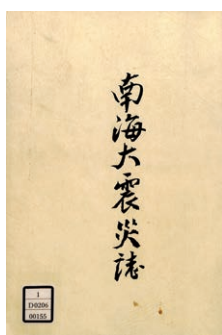
学ぶ



高知県防災キャラクター©やなせたかし

【行政資料】 南海大震災誌

昭和24年発行の南海大震災誌には、昭和21年12月21日に発生した昭和南海地震の記録が、写真や文章で綴られています。



防災教育の教材

小・中・高校生や保育所・幼稚園の園児の防災教育の教材として、それぞれの年代に応じた「防災ハンドブック」や「紙芝居」などの教材が整備されています。



防災紙芝居(H26)

高校生のための防災ハンドブック(H27)